

えいらい

No.56

令和 5 年 8 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

夏号
2023



〒790-0067
愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5
TEL / 089-943-1151
FAX / 089-947-0026

発行責任者／理事長 山本祐司
編集／松山市民病院広報委員会

今号のトピックス

- ◇ 巻頭言
- ◇ 臨床の現場から
- ◇ 地域医療連携室長就任の挨拶
- ◇ 出張、おでかけ松山市民病院ミーティング
- ◇ 日本IVR学会総会優秀賞受賞
- ◇ リハビリ step by step
- ◇ ボランティア「白鷺」通信
- ◇ 連携医療機関の紹介
- ◇ 応援するぞ！二刀流医師
- ◇ お知らせ

撮影：保育管理課 / 中川 沙織 (久万高原町 四国カルスト)

アフターコロナ

副院長 田中 良憲



2023 年 5 月 8 日、新型コロナウイルスの位置づけが感染症法上の 5 類（季節性インフルエンザと同じ）に移行しましたが、街中の人々は未だに多くの方がマスクを着用しています。しかし各種制限も撤廃され街中の賑わいがかなり戻ってきました。

その一方、コロナ陽性患者さんの入院は続いており、病院内でのマスク着用は必須となっています。職員の感染も散発しております。これまで毎日ニュースに流れていたコロナの感染者数・死亡数が発表されなくなりましたが、今後も状況を見ながら生活していく必要があると考えます。

今年はここ数年自粛されていたイベントも開催され、松山でも花火大会が行われるようです。院内ではしばらく行われていなかった歓送迎会が、各部署で行われるようになってきております。私自身も先日医師の

歓迎会に久しぶりに参加しましたが、職場とは違った先生方の一面を感じることができ有意義であったと思います。

内科専門医取得のために必要とされていた、JMECC 講習 (内科救急・ICLS 講習会) もやっと開催を検討出来る状況になりました。当院も、地域連携を通じた再活性化を図るべく、「出張、おでかけ松山市民病院ミーティング」を開始いたしました。今年は病診連携の会も再開し、顔の見える連携を行えるようになればと考えております。また、院内ボランティアの活動も本格的に再開し、河原アイペットワールド専門学校の皆様のご協力のもと、中庭テラスにてイベントを行うことができました。

今後は、コロナ病棟を運営するために閉鎖していた病棟の再開、働き方改革、機能評価などやるべき事が山積みになっております。

しかしながら、コロナのおかげで良くなったこともあります。その一つが WEB での学会や講演会の参加などが可能になったことです。

今まで参加できなかった学会にも参加することができ、非常に勉強になったと感じています。その一方で、今年の 4 月に久しぶりに全国学会に出席しましたが、実際の会場で講演を聴く事の良さを感じることが出来ました。今後は両方の良いところを吸収できればと思っております。

人々の動きが戻ったためか、インフルエンザ等の感染症も流行しております。また、新型コロナウイルスの再流行の可能性もあり、先行きは不透明なところもあります。光熱費など物価上昇も続いており、病院を取り巻く環境は厳しいものとなっておりますが、職員一同乗り越えていけたらと考えております。